

福島第二原子力発電所  
放射線業務従事者数および線量状況について

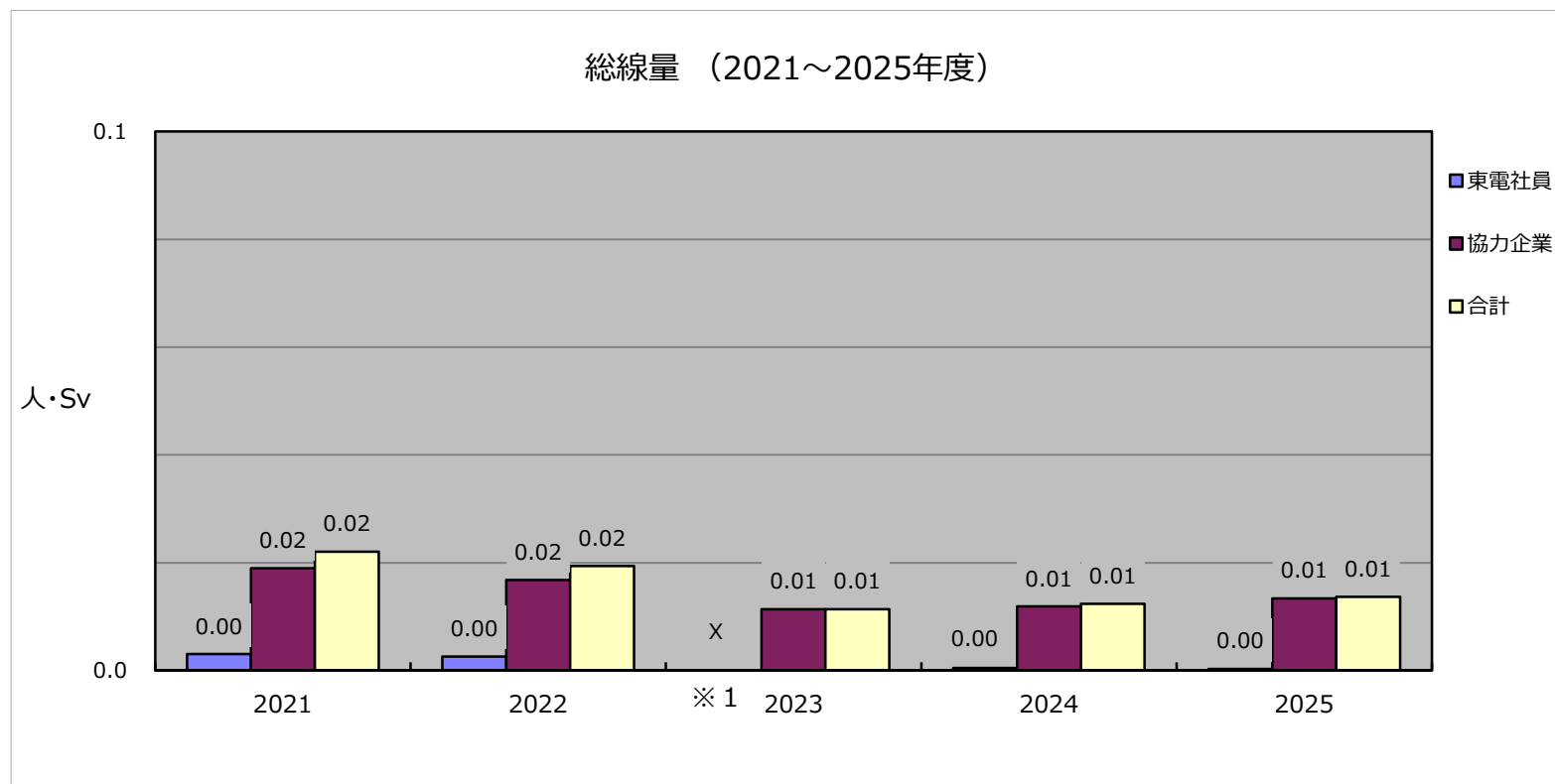
2026年 6月 3日

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ①年度別外部被ばく総線量

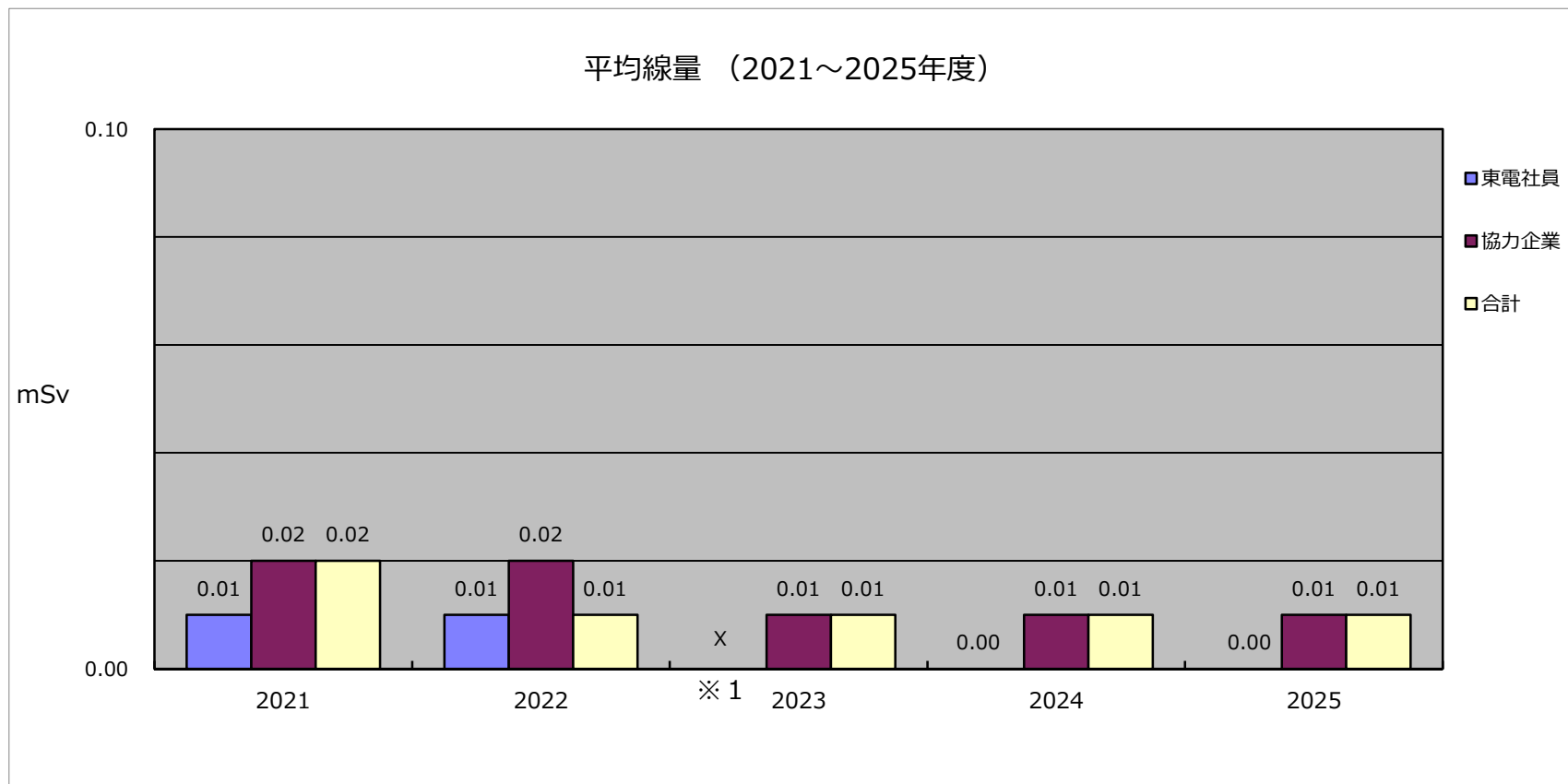
- 前年度と比較して同程度である。



※1 X:検出限界(0.1mSv)未満

## ②年度別外部被ばく平均線量

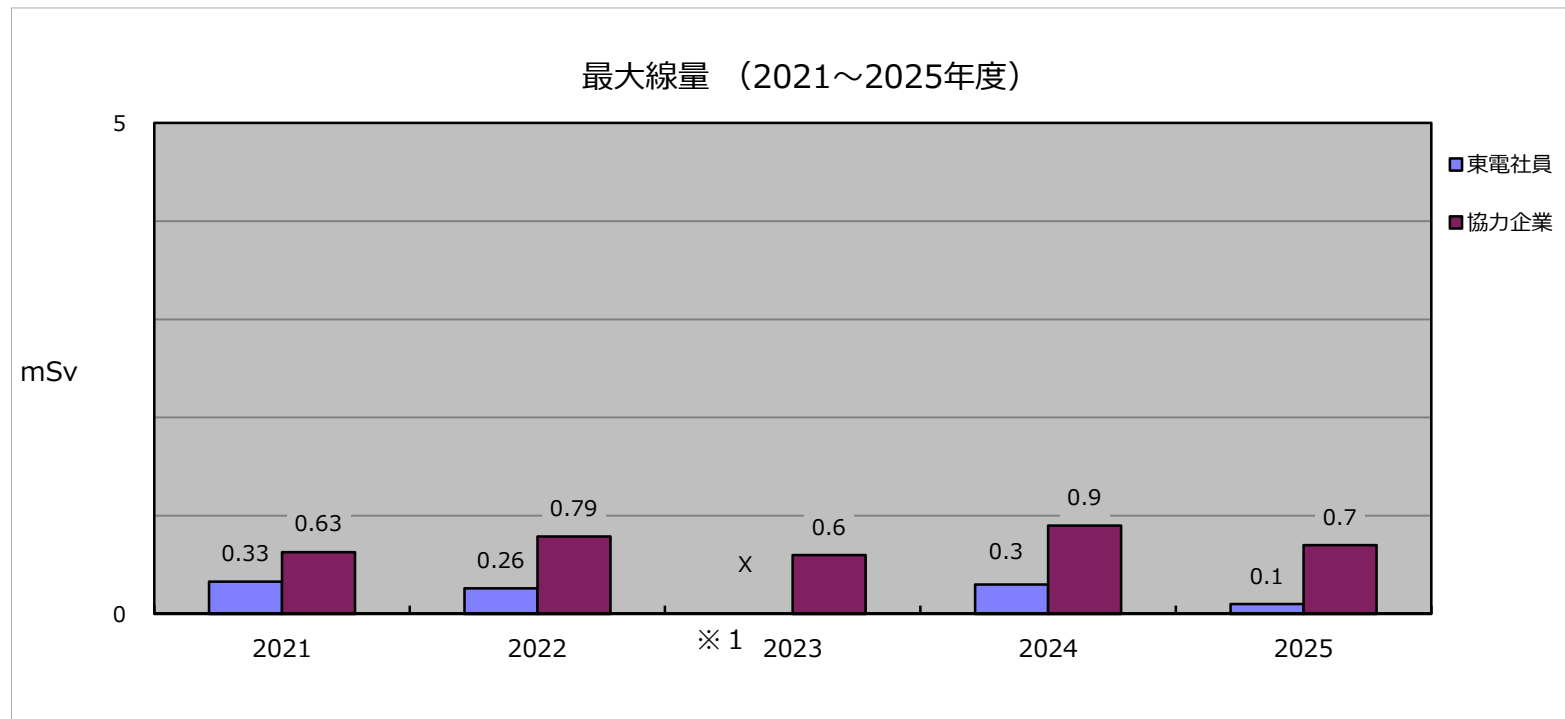
- 前年度と比較して同程度である。



※1 X:検出限界(0.1mSv)未満

### ③年度別外部被ばく最大線量

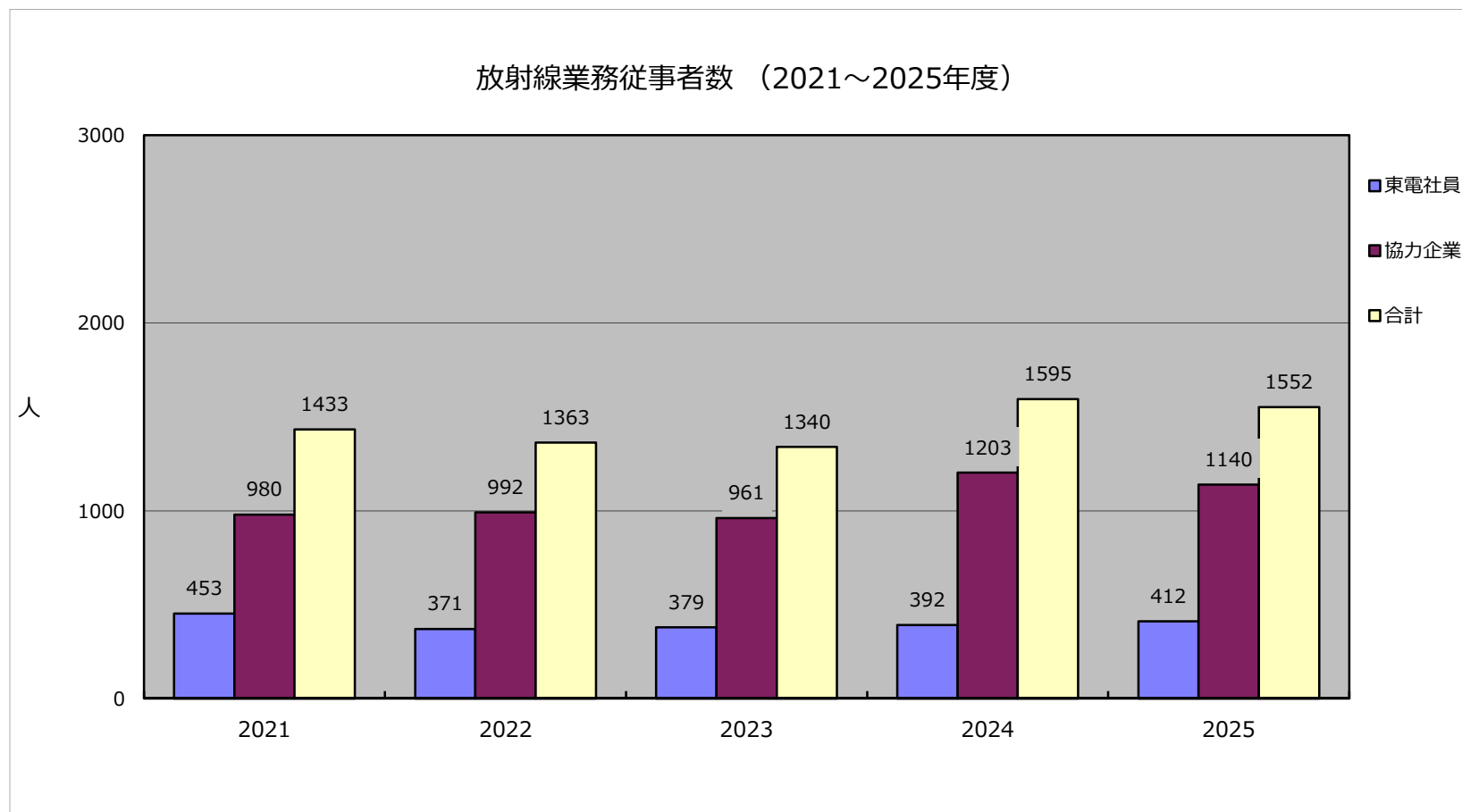
- 社員の外部被ばく最大線量は、「運転パトロール及び運転操作」によるもので、協力企業の外部被ばく最大線量は、「RHR(残留熱除去系)ポンプ本格点検」の作業によるもので計画通りの実績となっている。  
また、2021年4月を始期とする5年線量限度についても十分に下回っている。



※1 X:検出限界(0.1mSv)未満

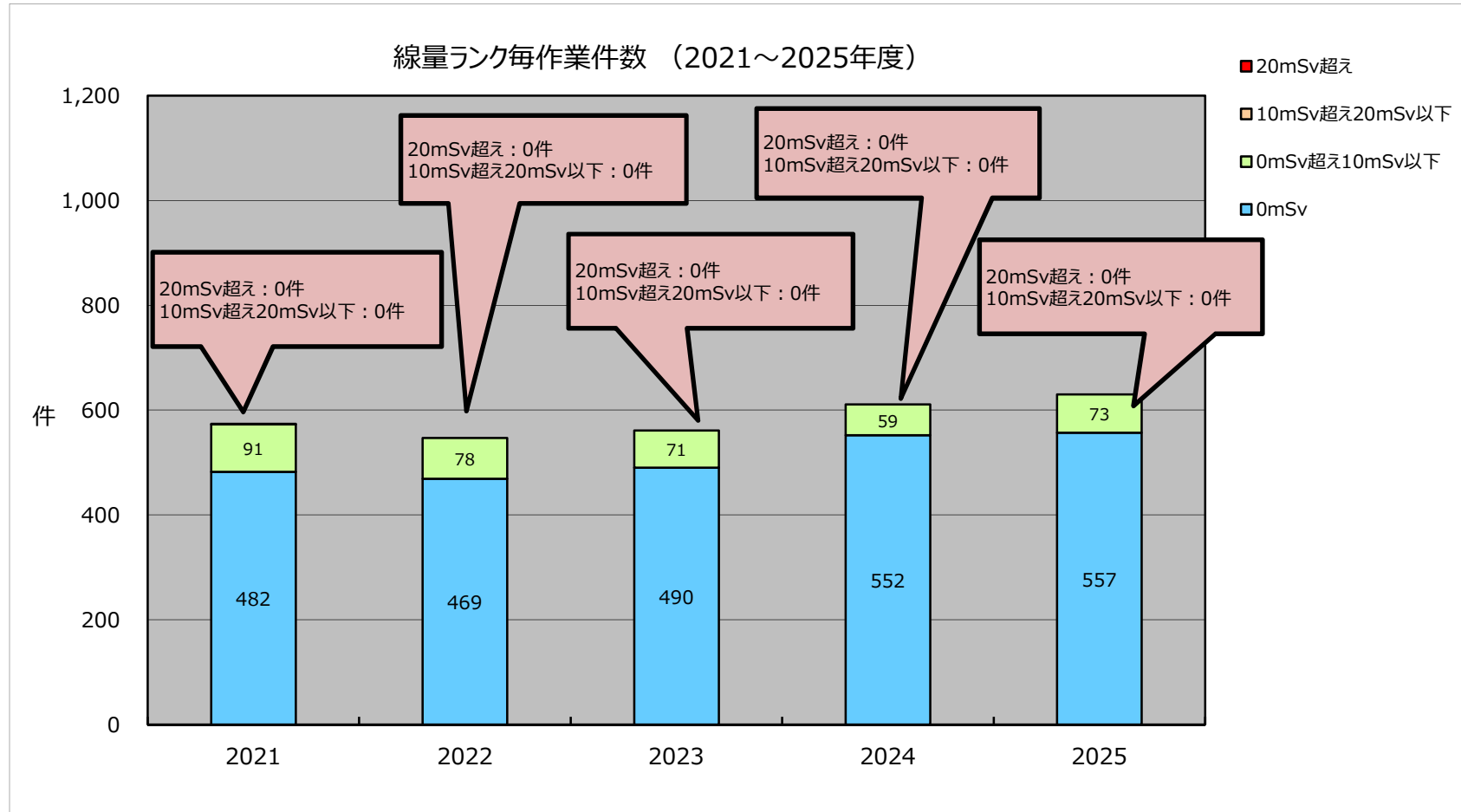
## ④年度別放射線業務従事者数

- 前年度の同時期と比較して同程度である。



## ⑤年度別線量ランク毎作業件数

- 2021年度から2025年度において10mSvを超える作業は、0件となっている。



## ⑥ 2021年4月1日を始期とする5年間の実効線量

---

- 当該期間における実効線量は以下のとおりである。

2021.4月～2026.3月の累積		
個人最大実効線量 (mSv)	東電社員	協力企業
		0.59

法令に基づく線量限度の5年間100mSvを十分に下回っている。

また、各年度においても最大値は0.9mSv(③年度別外部被ばく最大線量)であり、年間の線量限度50mSvを十分に下回っており、適切に線量管理されているものと評価する。

今後の5年間(2026年4月以降)についても、法令の基準値を満足できるよう引き続きALARA活動による作業者の被ばく低減を図り適切な線量管理を行っていく。

## ⑦前年度との比較

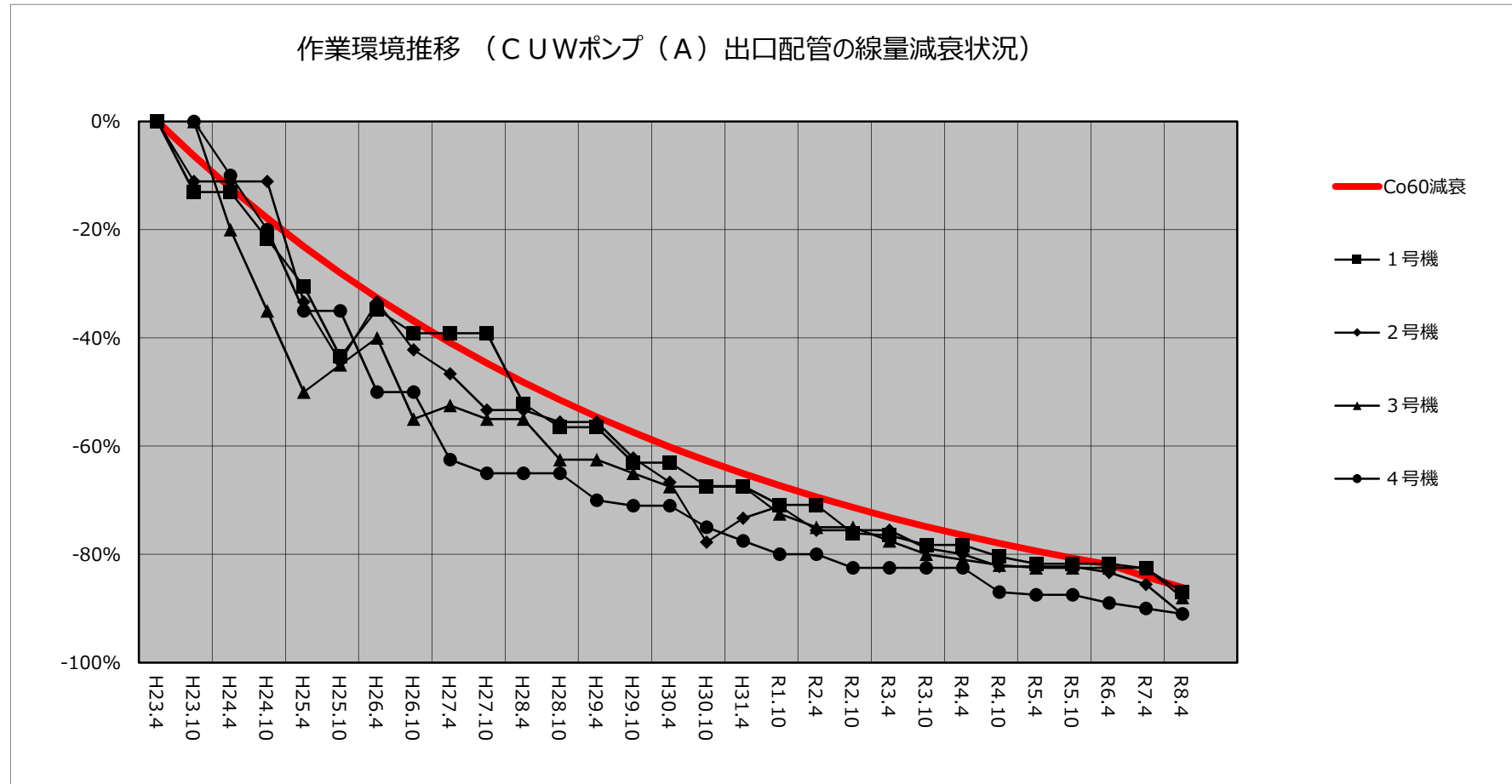
- 外部被ばく総線量、平均線量とも昨年度の同時期と比較して同程度となっている。

個人最大線量は、東電社員は「運転パトロール及び運転操作」によるもので協力企業は「RHR(残留熱除去系)ポンプ本格点検」の作業によるもので計画通りの実績となっている。

比較項目		2024年度	2025年度	比較 (2025-2024)
総線量		0.01人・Sv	0.01人・Sv	0.00人・Sv
平均線量		0.01mSv	0.01mSv	0.00mSv
最大線量	東電社員	0.3mSv	0.1mSv	▲ 0.2mSv
	協力企業	0.9mSv	0.7mSv	▲ 0.2mSv
放射線業務従事者数		1595人	1552人	▲ 43人
総線量が10人・mSvを超える作業件名数		0件	0件	0件

# 参考資料

## CUW:原子炉冷却材浄化系



作業環境に与える指標として採取している代表的なデータを示したもの(D/Wを除く)